# 所在地一覧

#### 消防本部·上田中央消防署

〒386-0024 上田市大手二丁目7番16号

電話:総務課·警防課 0268-26-0119 | 予防課 0268-26-0029

電話:上田中央署0268-26-0019 FAX:0268-23-6901庁舎共通

#### 上田南部消防署

〒386-1322 上田市小島550-1

電話:0268-38-0119 FAX:0268-38-7101

#### 上田東北消防署

〒386-0151 上田市芳田1515-1

電話:0268-36-0119 FAX:0268-36-0341

#### 川西消防署

〒386-1546 上田市浦野126-2

電話:0268-31-0119 FAX:0268-31-0019

#### 丸子消防署

〒386-0404 上田市上丸子1603-1

電話:0268-42-0119 FAX:0268-42-3738

#### 真田消防署

〒386-2201 上田市真田町長7174-1

電話:0268-72-0119 FAX:0268-72-0120

#### 東御消防署

〒389-0517 東御市県268-1

電話:0268-62-0119

FAX:0268-63-6119

#### 依田窪南部消防署

〒386-0603 小県郡長和町古町2640-1

電話:0268-68-0119 FAX:0268-68-4119



# 五十周年記念誌

上田市・東御市・青木村・長和町



# ごあいさつ



上田地域広域連合長 十屋 陽一

当消防本部は、昭和47年4月1日に広域市町村圏事業の一環として、上小地域広域行政事務組合消防本部として発足以来、今年で50周年という大きな節目を迎えることができました。これまで圏域の消防行政の発展に貢献いただきました皆様に深く感謝を申し上げます。

この間、地方分権の推進を目的とする平成の大合併により、構成市町村が1市4町3村から現在の上田市、東御市、青木村及び長和町の4市町村となるなど、地方自治体のあり方も大きく変化する中、圏域の皆様のお力添えを賜り、消防施設や装備の充実を図り、消防力の強化に努めてきたところです。近年の災害は、地球温暖化に伴う気候変動などにより、局地的なゲリラ豪雨や暴風雨などの災害が多発化、激甚化しています。令和元年東日本台風災害では、上田電鉄別所線の赤い鉄橋の一部が崩落して人々の生活の足が奪われ、東御市田中橋の道路陥没では尊い命が失われるなど、大きな被害に見舞われました。

また、新型コロナウイルス感染症は、令和2年1月に国内で初の感染者が報告されて以降、全国各地で感染者が急速に増加し、日常生活はもとより社会経済活動を一変させるなど、大規模災害と言えるほどの大きな影響を及ぼしております。

劇的に変化していく環境の中、広域消防はそのスケールメリットを生かし、この変化を的確に捉えて対応していかなければなりません。そのためにも先輩方が培ってきたものを継承しながら、更に新たな知識、技術及び最新の装備等を取り入れ、時代に即した消防体制としていく必要があります。住民の生命・身体・財産を災害から守るという消防の使命を踏まえ、発足50周年という節目を、これから先の未来に向けた体制づくりの契機として取り組んでまいります。

結びに、今後も住民の安全・安心を最優先に取り組む所存でございますので、皆様の御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げ、発足50周年に当たってのあいさつとさせていただきます。

# 広域消防発足50周年を祝して



上田地域広域連合議会議長 佐藤 論征

上田地域に広域消防が発足し、50周年を迎えられたこと、心からお祝いを申し上げます。

消防組織は、上小地域広域行政事務組合消防本部として昭和47年4月に発足以来、組織の改編や市町村合併を経て、平成10年4月に上田地域広域連合消防本部と改称し、現在の体制に至っております。 発足以来、危険を顧みず多くの災害に対し、皆様が一丸となり、幾多の困難を乗り越えて来た結果 として、地域住民の安全・安心が守られてきたものと考えております。

現在も管内約20万人の住民の皆様の生命・身体及び財産を災害から保護し、各種の災害による被害を最小限にとどめるほか、増大する救急需要に適切に対応するため、昼夜を問わず任務に精励いただいております。

皆様のこれまでの功績と日頃の御活躍に対しまして、住民を代表して感謝申し上げます。

社会を取り巻く情勢は、少子化・超高齢化社会の進行、新型感染症や環境問題、国際紛争等の様々な課題を抱えています。また、近年大規模化する自然災害や、より高度な処置が求められる救急活動をはじめ、複雑・多様化する様々な災害に対し、消防の担う役割は益々大きくなっております。今後も皆様の日々のたゆまぬ努力と、50年の長きに亘り培ってこられた、経験や技術を十分に発揮され、地域の安全・安心を守っていただきますよう、お願いいたします。

広域連合議会といたしましても、安全・安心なまちづくりの実現に向けて、消防の担う役割を果た せるよう協力をしていく所存でございます。

結びとなりますが、上田地域広域連合消防本部の益々の御発展と、職員の皆様の御健勝と御活躍を 析念申し上げまして、上田地域広域連合消防本部発足50周年のお祝いのごあいさつとさせていただき ます。

# 記念誌発刊によせて



上小消防協会長 黒澤 薫

このたび、上田広域消防本部が50周年の節目を迎えるにあたり、心からお慶び申し上げますとともに、地域の安心と安全を守るため、日夜献身的に御尽力をされてきた、広域消防本部関係者の皆様方に深く敬意と感謝の意を表します。

上小消防協会は、平成の市町村合併以降から現在において、上田市消防団、東御市消防団、長和町消防団、青木村消防団の4市町村消防団で構成されております。上田広域消防本部の皆様方には、日頃より各市町村消防団の活動はもとより、協会の活動に対しましても長年にわたり御協力をいただいております。

消防団は、少子高齢化・過疎化など様々な要因により、団員の減少という大きな課題に直面しております。こうしたなかでも複雑多様化する災害に備え、地域住民皆様の安心と安全を守るため、技術と知識の向上に努め、それぞれ地域の特色に合わせた消防団活動に取り組んでおります。

よく消防署と消防団の関係性は車の車輪にたとえられます。災害対応時はまさにその関係のごとく、それぞれの役割を果たすことが必要不可欠であります。消防職員皆様の高度な訓練で培われた技術力と対応力に加え、消防団の持つ地域密着性や要員動員力及び即時対応力の融合は、この地域の何よりの安心と安全に繋がると思います。

今後も、地域住民皆様の信頼と期待に応えられるよう活動に励み、自らの地域は自ら守る消防団精神 を高め、消防職員皆様方との緊密な連携と協力関係を築き、この地域の安心と安全に努めてまいります。 結びに、上小消防協会並びに本業を持ちながら地域防災力の中核として消防団活動に励む各市町村 消防団に対する、より一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げ、お祝いのごあいさつとさせていただき ます。

# 広域消防発足50周年を迎えて



上田地域広域連合消防長 堀池 正博

当広域消防本部が発足し、50周年の節目を迎えるに当たり、先人や関係各位の御尽力に敬意を表し、 感謝を申し上げます。

振り返りますと、昭和47年4月に1市4町3村による上小地域広域行政事務組合消防本部として、1本部3消防署4分署1分遣所に職員155人、消防車両25台を配置し消防業務を開始して以降、組織の変更や「平成の大合併」を経て、現在は、1本部8消防署に職員211人、消防車両67台により、2市1町1村の人口約20万人の住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、日々消防業務を行っております。

当消防本部は、その時々の社会情勢等を勘案し、職員数や車両数の増加を行うとともに、施設整備に努めてまいりました。

また、広域救助隊や救急救命士制度の導入、通信指令業務及び広域消防の一本化、女性消防職員の活躍推進、予防要員の育成、他機関への職員派遣等を行い消防力の強化を図ってまいりました。

近年は、従来型の災害に加え、地震や噴火災害、気候変動の影響による各種災害は大規模化、激甚 化する状況から、当消防本部も緊急消防援助隊等として、県内外へ出動するなど、県内のみならず全 国規模の連携が重要となっており、応援体制や受援体制についても強化を図っております。

現在の組織につきましては、幾多の災害を乗り越えてきた先人たちが、地域住民を各種災害から守るために必要となる体制を検討し、関係各位の深い御理解と多大なる御支援のもとに築き上げられたものであります。

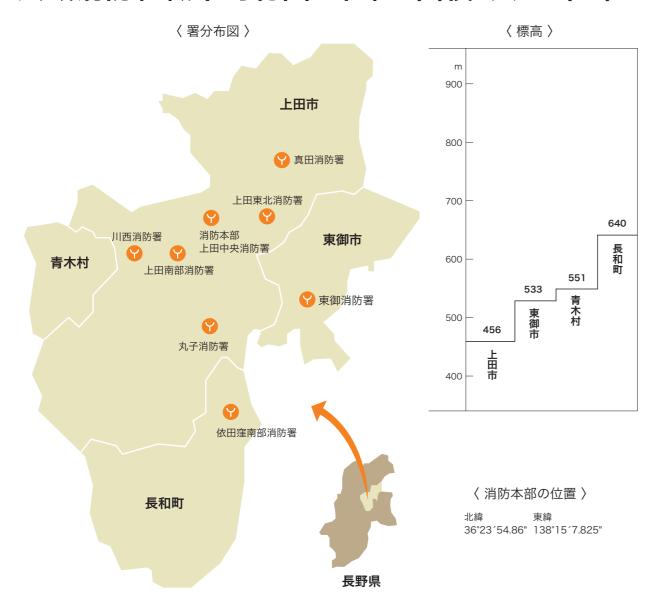
我々は、当消防本部が保有する消防力を最大限に発揮するとともに、先人たちから伝承された教訓等を基に、地域住民の「安全・安心」のため、関係機関との更なる連携を図り、消防業務に励んでまいる所存でございます。

結びに、今後も皆様方からのより一層の御支援と御鞭撻をお願い申し上げ、発刊に際してのあいさつとさせていただきます。



広域消防の紹介

# 広域消防組織市町村圏の位置・面積・人口・世帯



〈管内の概要数表〉

(R4.4.1現在)

区分市町村別	面積 kmi	ДП	世帯数	消防団員定員数(人)	
上田市	552.04	152,463	64,905	1,850	
東御市	112.37	29,605	12,319	800	
青木村	57.10	4,257	1,735	300	
長和町	183.86	5,815	2,634	250	
合 計	905.37	192,140	81,593	3,200	

※住民基本台帳及び外国人登録法に基づく人口、世帯数



# 上田地域広域連合消防本部•上田中央消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:本部37人・中央署39人)

構造 鉄筋コンクリート造

地上3階地下1階建

敷地面積 2,659.870㎡

建築面積 985.930㎡

延面積 2,296.230㎡

竣工年月日 昭和47年10月20日

平成27年9月30日

(耐震化工事・通信指令室棟増築)

平成29年1月18日

(車庫棟・物置新築)

所在地 上田市大手二丁目7番16号



上田中央はしご1(35m級はしご車)



上田中央ポンプ1(ポンプ車)

- 10



上田中央化学1(化学車)



上田中央救急1(高規格救急車)



上田中央指令1(指令車兼広報車)



上田警防指揮1(指揮隊車)



上田指導1(指導車)



上田中央工作1(救助工作車)



上田中央救急2(高規格救急車)



上田中央作業1(作業車)



トライアルバイク(消防活動二輪隊)



上田調査1(調査車)



上田南部タンク1(水槽付ポンプ車)

上田南部はしご1(15m級はしご車)

# 上田南部消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:20人)

鉄筋コンクリート造 2階建

敷地面積1,459.940㎡ 敷地面積

建築面積574.040㎡ 建築面積

延面積757.100㎡ 延面積

竣工年月日 昭和56年3月25日

令和2年3月31日(女性用仮眠室増築)





上田南部救急1(高規格救急車)



上田南部ポンプ1(ポンプ車)



上田南部作業1(作業車)



上田南部指令1(指令車)



上田東北消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:19人)

鉄骨造 2階建

2,389.000m² 敷地面積

671.570㎡ 建築面積

842.720m²

延面積

竣工年月日 平成6年12月28日

上田市芳田1515番地1



上田東北救急1(高規格救急車)



上田東北指令1(指令車)



上田東北救急2(高規格救急車)



上田東北作業1(2tダンプトラック車)

# 川西消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:14人)

鉄骨造 2階建

敷地面積 1,751.960㎡

建築面積 433.900㎡

581.090m² 延面積

竣工年月日 平成6年12月6日

上田市浦野126番地2



上田川西作業1(作業車)



上田川西救急1(高規格救急車)



上田川西指令1(指令車)



# 丸子消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:23人)

構造 鉄筋コンクリート造2階建・

鉄骨造2階建(車庫増築部分)

敷地面積 699.030㎡

建築面積 418.220㎡

延面積 732.750㎡

竣工年月日 昭和54年4月30日

平成10年9月24日(車庫増築)

所在地 上田市上丸子1603番地1



丸子救急1 (高規格救急車)



丸子作業1 (作業車)





丸子指令1 (指令車)

# 真田消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:15人)

構造 鉄骨造 2階建

**敷地面**積 1,610.230㎡

建築面積 668.760㎡

**延面積** 829.470㎡ **竣工年月日** 平成7年11月30日

所在地 上田市真田町長7174番地1



マイクロバス



真田作業1(作業車)



真田指令1(指令車)

. 16



東御タンク1(水槽付ポンプ車) 東御ポンプ1 (ポンプ車) 東御工作1(救助工作車) 依田窪タンク1(水槽付ポンプ車) 依田窪水槽1(小型動力ポンプ付水槽車)

# 東御消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:27人)

鉄骨造 2階建

2,644.150m²

932.420m² 建築面積

1,306.840m<sup>2</sup>

平成3年3月22日 竣工年月日

東御市県268番地1



東御救急1(高規格救急車)



東御水槽1(小型動力ポンプ付水槽車Ⅱ)



東御救急2(高規格救急車)



東御作業1(作業車)



東御指導1(指導車)



東御指令1(指令車)

# 依田窪南部消防署

(令和4年4月1日現在 職員数:17人)

鉄骨造 平屋建

2,799.000m² 敷地面積

建築面積 797.240㎡

761.000m<sup>2</sup> 延面積

竣工年月日 平成6年12月15日

小県郡長和町古町2640番地1



依田窪タンク2(水槽付ポンプ車)



依田窪救急1(高規格救急車)



依田窪作業1(作業車)



依田窪指令1(指令車)





	訓練塔A塔	訓練塔B塔	管理棟				
構造	鉄骨造6階建	鉄骨造6階建 鉄骨造3階建					
敷地面積		2,993.06m²					
延面積	354.00m²	38.88m²					
竣工年月日	平成27年5月29日						
所在地	上田市殿城613番地1						



S47.4.1	広域市町村圏事業の一環として上小地域広域行政事務組合消防本部(上田消防署・丸子消防署・長門分署・東部消防署・真田分署・武石分署・和田分遣所・川西分署)として発足。上田市の川西分署が川辺分署と改称
4.26	東部消防署に社団法人日本損害保険協会から トヨタ救急車1台寄贈を受け救急業務開始
5.11	長門分署に丸子消防署から消防専用電話が入る。
6.15	長門分署が役場の一部を増改築し仮庁舎から移る。 東部消防署庁舎増改築工事が完了(鉄骨造2階建て)5,660千円
8.31	武石分署庁舎竣工7,700千円
9.5	武石分署消防ポンプ自動車に無線機が配備され業務開始
9.20	真田分署消防ポンプ自動車に無線機が配備され業務開始
9.27	東部消防署に消防用無線基地局移動局が配備され業務開始
9.30	川西分署庁舎が竣工し仮庁舎から移る。
10.20	上田市消防会館が竣工し上小広域消防本部及び上田消防署が移転し業務開始
12.19	真田分署庁舎竣工8,800千円
S48.5.10	丸子消防署に気象観測機設置
\$50.8.1	真田分署にトヨタ救急車を購入し救急業務開始2,850千円
\$51.2.25	川西分署救急業務開始
S52.12.23	東部消防署通信指令室増改築工事が完了2,720千円
\$54.3.31	真田分署事務室増改築工事が完了1,500千円
4.30	丸子消防署新庁舎が竣工し同年5月9日業務開始113,170千円
\$55.3.20	東部消防署車庫増築工事が完了7,000千円
\$56.4.2	上田南部消防署が新設され業務開始。川辺、塩田分署を上田南部消防署に統合し救急業務開始 164,093千円 上田南部消防署新設に伴い、上田消防署は上田中央消防署と改名
S57.8.1	台風10号により、上田市、東部町各地に被害発生
9.12	台風18号により、上田市、東部町各地に被害発生
S58.4.1	東北分署移転業務開始。大屋分遣所廃止、建物は上田市消防団第10分団へ移管
S58.4.1 9.1	東北分署移転業務開始。大屋分遣所廃止、建物は上田市消防団第10分団へ移管東北分署救急業務開始
9.1	
9.1	東北分署救急業務開始
9.1	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生
9.1 9.28~29 \$59.2.29	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円 覚知14時06分 東部町、新張山にて林野火災
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円 覚知14時06分 東部町、新張山にて林野火災 (焼損面積 2,200a 損害額35,984千円)
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円 覚知14時06分 東部町、新張山にて林野火災 (焼損面積 2,200a 損害額35,984千円) 川西分署庁舎増改築工事が完了(屋外階段、車庫)1,215千円 長門分署新庁舎が竣工、同年9月4日業務開始 30,615千円
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1 6.10 8.31	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1 6.10 8.31	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円  覚知14時06分 東部町、新張山にて林野火災 (焼損面積 2,200a 損害額35,984千円)  川西分署庁舎増改築工事が完了(屋外階段、車庫)1,215千円  長門分署新庁舎が竣工、同年9月4日業務開始 30,615千円 2階及び車庫の一部が長門町有線放送室になる。 丸子消防署に総合気象観測装置設置3,400千円
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1 6.10 8.31 12.21 \$61.12.1 \$62.3.25 4.21	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円  党知14時06分 東部町、新張山にて林野火災 (焼損面積 2,200a 損害額35,984千円)  川西分署庁舎増改築工事が完了 (屋外階段、車庫) 1,215千円 長門分署新庁舎が竣工、同年9月4日業務開始 30,615千円 2階及び車庫の一部が長門町有線放送室になる。 丸子消防署に総合気象観測装置設置3,400千円 長門分署に消防本部救急車を配置し救急業務開始 消防本部指令室に指令装置 II 型設置21,900千円  党知20時20分 上田市大字住吉字金剛寺 東太郎山にて林野火災上田市 焼損面積 16,341a 損害額 260,476千円 真田町 焼損面積 1,463a 損害額 16,278千円 党知22時20分 上田市大字下之郷 東山にて林野火災 焼損面積 3,138a 損害額 49,382千円
9.1 9.28~29 \$59.2.29 \$60.5.1 6.10 8.31 12.21 \$61.12.1 \$62.3.25	東北分署救急業務開始 台風10号により、上田市各地に被害発生 武石分署に総合気象観測装置設置3,400千円  党知14時06分 東部町、新張山にて林野火災 (焼損面積 2,200a 損害額35,984千円)  川西分署庁舎増改築工事が完了(屋外階段、車庫)1,215千円 長門分署新庁舎が竣工、同年9月4日業務開始 30,615千円 2階及び車庫の一部が長門町有線放送室になる。 丸子消防署に総合気象観測装置設置3,400千円 長門分署に消防本部救急車を配置し救急業務開始 消防本部指令室に指令装置 II 型設置21,900千円  党知20時20分 上田市大字住吉字金剛寺 東太郎山にて林野火災上田市 焼損面積 16,341a 損害額 260,476千円 真田町 焼損面積 1,463a 損害額 16,278千円 党知22時20分 上田市大字下之郷 東山にて林野火災

H元.8.10	覚知21時36分 上田市大字小泉 川西小学校北校舎から出火 焼損面積 2,177㎡ 損害額 51,067千円
8.16	台風15号により、上田市、東部町、真田町各地に被害発生。 207戸床上浸水、JR信越線、田中駅から大屋駅間の道床流失。 特急など運休する。
H2.11.1	真田分署、真田消防署に昇格
H3.3.25	東部消防署 新庁舎が竣工169,991千円
3.31	消防本部の上田気象連絡所が古里へ移転し、観測業務開始
4.1	上小地域の構成市町村に坂城町が加わり、 名称を上田地域広域行政事務組合とする。
H4.1.29	消防本部指令室に緊急通報システムを設置(上田市)
3.31	東部消防署救助訓練塔が完成1,300千円
6.1	救急救命士法による救急救命士第1号が上田中央消防署に誕生
11.9	上田広域消防発足20周年記念式典実施
H5.4.1	救助隊の中にトライアル分隊を増設
10.13	第1回広域事業所屋内消火栓操法大会実施
12.9	応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱に基づき、 応急手当指導員養成講習会を各署で開催し、研修修了証を交付
H6.2.2	覚知2時26分 上田市大字下塩尻、国道18号線上にて 大型トラックを含む計15台の玉突き衝突事故が発生する。 死傷者2人
4.1	職員採用14人、総員184人となる。 上田中央消防署2人配属、丸子消防署2人配属、丸子消防署長門分署5人配属、丸子消防署武石分署3人配属、 東部消防署1人配属、真田消防署1人配属
10.9	覚知18時15分 上田市大字下塩尻の 危険物施設 (屋外タンク貯蔵所) にて油脂火災 損害額 113,003千円 死傷者4人
12.6	川西分署新庁舎竣工188,932千円
12.15	依田窪南部消防署新庁舎竣工235,953千円
12.28	東北分署新庁舎竣工 移転業務開始296,640千円
H7.3.9	依田窪南部消防署ホース洗浄機購入 OHC-119SH 1,339千円
4.1	依田窪南部消防署開署18人で発足
7.18	依田窪南部消防署ホース乾燥機購入7,714千円
8.1	東北分署敷地舗装工事が完了7,467千円
8.31	川西分署敷地舗装工事が完了6,025千円
11.30	真田消防署新庁舎竣工 209,038千円
12.4	党知22時10分 和田村下西山にて林野火災 焼損面積 180a 損害額 3,500千円
12.6	第知22時10分 和田村下西山にて林野火災   焼損面積 70a 損害額 1,362千円
H8.4.15	党知10時54分 武石村余里地区にて林野火災 焼損面積 629a 損害額 9,446千円
9.9	依田窪南部消防署緊急通報システムセンター装置開始5,157千円
12.1	上田東北消防署開署19人で発足(旧東北分署) 川西消防署開署12人で発足(旧川西分署)
12.24	党知4時37分 上田市大字中野 塩田中学校校舎から出火 焼損面積 988㎡ 損害額 57,202千円
H9.3.31	依田窪南部消防署看板塔竣工1,998千円

22

4.1	依田窪南部消防署3人増員となる。
4.14	丸子町大字東内字殿入にて林野火災 焼損面積 1,500a 損害額 22,110千円 死者1人
H10.4.1	広域の組織改革に伴い上田地域広域連合消防本部となる。
9.24	丸子消防署車庫増築及び庁舎模様替工事が完了35,011千円
H11.4.27	山梨県で開催された第22回全国消防職員意見発表会関東大会に おいて西澤消防副士長が優秀賞を受賞する。
H12.4.20	東京都で開催された第23回全国消防職員意見 発表会関東大会において山寺消防副士長が 優秀賞を受賞する。
11.1	警防課通信指令室に消防緊急通信指令施設 II 型導入 管内の通信指令体制が一本化となる。224,700千円
H13.8.30	丸子消防署 気象観測装置更新 株式会社日本エレクトリックインスルメント6,531千円
9.11	台風15号により、千曲川に架かる上田市と丸子町を結ぶ 大石橋の橋脚が傾き、通行ができなくなる。 また、瀬沢川 (大屋地区) の土手が一部決壊し、 付近住民に避難勧告がでる。
H14.3.25	覚知17時48分 上田市大字下之郷 東山にて林野火災 焼損面積 950a 損害額 13,000千円
H15.4.1	上田中央消防署に女性消防吏員2人を上田市が採用し、女性職員用の仮眠室を設置する。 12,495千円
6.9	上田地域広域連合メディカルコントロール分科会設立
H16.4.1	東御市発足 (東部町と北御牧村の合併) に伴い、東御消防署へ名称変更 職員定数条例改正 消防職員数 192人 (平成16年2月議会)
7.13~ 7.14	新潟県豪雨災害に対し、長野県緊急消防援助隊として 見附市及び三条市へ 救助部隊5人を派遣する。
7.18~ 7.19	福井県豪雨災害に対し、長野県緊急消防援助隊として福井市へ救助部隊5人を派遣する。
10.20	台風23号により、上田市各地に被害が発生する。 避難勧告2箇所、床下浸水26箇所、総雨量150mm、被害総額 820,130千円
10.25~ 10.29	長野県緊急消防援助隊として4隊18人を派遣する。
11.19	平成16年10月の新潟県中越地震時の緊急消防援助 隊の活動に対し、総務大臣感謝状、消防庁長官表彰 が授与される。
12.16	平成16年7月新潟県豪雨災害、福井県豪雨災害、 10月新潟県中越地震時の緊急消防援助隊の活動 に対し、消防庁長官から褒状が授与される。
H17.5.26	熊本市で開催された第28回全国消防職員意見発 表会において淺川消防副士長が最優秀賞を受賞する。 題名「小さな消防士」 全国9支部代表10人出場
8.1	覚知2時53分 丸子町生田の工場にて建物火災 焼損面積 5,563㎡ 損害額 829,300千円
10.1	長和町発足(長門町と和田村の合併)に伴い、構成市町村数が7となる。
H18.3.6	新上田市発足(上田市、丸子町、真田町、武石村の合併)に伴い、 構成市町村数が4となる。
4.1	東御消防署に女性消防吏員1人を東御市が採用し、女性職員用の仮眠室を設置する。 2,352千円
4.18	党知14時21分 上田市東内池ノ平 (御嶽堂) にて林野火災 出動人員 消防職員95人 消防団員468人 航空隊3隊 焼損面積180 a
7.15~ 7.19	15日夜遅くから降り出した雨は、総雨量221mmを記録し、17日から19日にかけて降った72時間降水量209mmの雨は、アメダス観測所の統計開始以来史上最高となった。この集中豪雨により地盤が緩んで、土砂崩落を中心に市内500箇所以上で災害が発生した。自主避難5世帯 災害発生件数545件 被害総額674,852千円行方不明者1人

H19.4.1	職員定数条例改正 消防職員数 201人(平成19年2月議会)
5.5~ 5.7	覚知9時43分 上田市古安曽 (平井寺) にて林野火災 出動人員 消防職員201人、消防団員944人 消防防災航空隊3隊 自衛隊ヘリ2機 焼損面積 2,196a (5月8日の再燃焼失6aを含む) 損害額 3,225千円
H20.4.16	覚知18時12分 上田市中丸子 建設中の上田市丸子学校給食センターから出火 焼損面積 1,473.58㎡ 損害額 234,030千円
H21.3.12	警防課通信指令室 消防緊急通信指令施設Ⅱ型改修工事74,550千円
H22.3.16	警防課通信指令室 統合型発信地表示システム導入運用開始19,572千円
4.1	消防吏員の身分を各市町村から広域連合へと移管し、広域消防一本化が完了する。
4.15	上田地域広域連合職員互助会が発足する。
7.2	川西消防署管内で豪雨災害 川西消防署雨量計で93.5mmの降雨 上田市下室賀地籍で土砂崩落 避難勧告4世帯10人 青木村奈良本地籍及び田沢地籍で床下浸水47棟、床上浸水5棟、 宅地土砂崩落14、土砂崩れによる国道143号の通行止め等の被害 避難勧告2世帯9人、自主避難3世帯5人
8.2	真田消防署雨量計で18時〜22時の4時間で総雨量111mmの集中豪雨 上田市内では矢出沢川が氾濫し、真田町傍陽地籍から塩尻地籍にかけて の千曲川右岸一帯で床上浸水55棟、床下浸水275棟、道路、河川、 農作物等に大きな被害
H23.3.11~ 4.3	東北地方太平洋沖地震に対し、長野県緊急消防援助隊として職員を派遣 宮城県多賀城市、塩竃市、名取市、七ヶ浜町にて活動 第1次隊から第9次隊まで合計21隊78人を派遣する。
11.10	移動式高圧空気充填機購入4,389千円
H24.9.5	覚知22時04分 上田市浦野 浦里小学校から出火 旧校舎を含む 2,580.44㎡焼損 損害額 43,226千円
H25.3.17	覚知14時19分 青木村当郷にて林野火災 消防防災航空隊1隊 焼損面積128 a 損害額 456千円
3.27	東北信地域消防救急無線デジタル無線整備に関する 基本協定の締結(長野市)
8.12	消防救急デジタル無線整備の委託に関する協定の締結(長野市)
H26.2.14~ 2.15	日本の南岸を発達しながら通過した低気圧と上空の寒気の影響により、上田市大手で最深積雪76cmを 観測する「記録的な大雪」となった。
2.26	消防本部庁舎耐震化及び増改築事業 建築主体工事請負契約の締結 受注者 青木·宮嘉特定建設工事共同企業体
3.31	消防本部庁舎耐震化及び増改築事業 電気設備工事請負契約の締結 受注者 丸子小諸電気株式会社 消防本部庁舎耐震化及び増改築事業 給排水衛生・空調設備工事請負契約の締結 受注者 浅間設備株式会社
5.12	消防本部庁舎耐震化及び増改築事業に伴い、消防本部を「上田市勤労青少年ホーム」へ業務移転する。
7.20	覚知13時47分 上田市菅平高原で集団食中毒事案が発生し、186人搬送
8.12	覚知5時07分 上田市殿城の工場にて建物火災 焼損面積4,294㎡ 損害額484,851千円
9.27~ 10.17	御嶽山噴火災害に対し、長野県消防相互応援隊として 職員を派遣 長野県・岐阜県境に位置する御嶽山にて活動 第1次隊から第11次隊まで合計21隊88人を派遣する。
H27.2.4	覚知2時15分 上田市長瀬の工場にて建物火災 焼損面積672㎡ 損害額 48,058千円
3.23	消防本部庁舎耐震化及び増改築事業が一部終了し、 消防本部を「上田市勤労青少年ホーム」から本部庁舎 へ業務移転する。
3.24	高機能消防指令装置更新事業 竣工462,240千円

 $^{14}$ 

5.29	消防本部総合訓練場竣工127,094千円 訓練塔A塔 鉄骨造6階建 延床面積 354.00㎡ 訓練塔B塔 鉄骨造3階建 延床面積 55.20㎡ 管理棟 木造 平屋建 延床面積 38.88㎡ 敷地面積 2,993.06㎡
7.28~ 8.7	御嶽山噴火災害に係る再捜索活動のため職員を派遣 御嶽山山頂付近において捜索活動実施。派遣職員5人、延べ17人入山。
9.30	消防本部庁舎耐震化及び増改築事業のうち、建築主体工事、電気設備工事、 空調設備工事及び給排水衛生設備工事が完了620,546千円 増築部分(通信指令室棟) 鉄骨造4階建 延床面積 413.33㎡
H28.3.31	消防救急デジタル無線整備事業完了748,515千円
8.18	依田窪南部消防署雨量計で14時~19時30分の5時間30分で総雨量157.5mmの集中豪雨 四泊、長久保地域の一部と古町有坂地域164世帯412人に避難勧告、25世帯64人が一時避難する。
H29.1.18	消防本部庁舎の耐震化及び増改築事業の最終工事として、 車庫棟、物置新築工事が完了26,298千円 車庫棟(鉄骨造 平屋建)床面積 114.57㎡ 物置(鉄骨プレハブ造 平屋建)床面積 20.53㎡
3.5	長野県消防防災へリコプター「アルプス」が訓練中、松本市鉢伏山に墜落 上田地域広域連合消防本部から派遣の甲田 道昭消防司令長を含む、搭乗者9人全員が殉職、当事故における救助活動に長野県消防相互応援協定に基づく応援要請により、救助隊、後方支援隊を延べ2隊8人派遣する。
12.27	上田南部消防署 仮眠室個室化等改修工事が完了23,652千円
H30.3.23	消防本部警防課 指揮隊車を購入10,346千円
11.2	上田南部消防署 庁舎外壁等改修工事が完了16,816千円
H31.4.1	職員定数条例改正 消防職員数 218人(平成31年2月議会)
R元.10.12	「令和元年東日本台風」により、大雨特別警報が発表され、気象庁アメダス鹿教湯観測所で雨量が320.0mmを記録し、管内3観測所で極値を更新した。この大雨等の影響で管内各地で、住家の損壊や浸水、また橋や道路の崩落等が多数発生し、東御市田中橋の道路陥没事案では、転落した車両が川に流され1名の行方不明者が発生し、10月23日まで延べ353人が捜索にあたった。管内被害:死者1名 負傷者7名(関連含む)住家被害480棟 【令和3年4月23日現在】
R2.3.31	上田南部消防署 女性仮眠室等新設工事が完了10,427千円
R3.3.10	高機能消防指令装置、部分更新事業が完了(賃貸借業務契約)160,870千円
3.23	青木村夫神地籍にて、個人運航のヘリコプターが不時着 し、機体を損傷する。負傷者6人
3.29	有限会社 ヒカリ ドローンショップ トビウオから 無人航空機 (DJI MAVIC2 ENTERPRISE DUAL) 1機の寄贈を受け、警防課へ配置 (6月3日運用開始)
4.1	当消防本部初の再任用職員採用(2人)
7.3	静岡県熱海市土石流災害により、 家屋等が流され多数の行方不明者が発生
7.12~7.20	7月3日に発生した静岡県熱海市土石流災害に対し、 長野県緊急消防援助隊として職員を派遣。救助小隊、 後方支援小隊として出動。第1次隊から第4次隊まで、 合計18隊72人を派遣する。



消防業務

# 警防活動について

# 警防業務

財産を火災から保護するとともに、火災又は地 震等の災害による被害を軽減することを目的とし ています。住民の安全・安心のため、時代の変遷に 即応する消防力の強化に努めています。





# 通信指令室

24時間365日休むことなく稼働する最新鋭の「高機能消防指令システム」を導入しており、119番通報を受理、情報を迅速・的確に把握し、災害に適した部隊の編成から指令、部隊管理を行い、多様な緊急受付態勢の確立、現場到着の時間短縮、災害現場活動支援の強化や大規模災害への対応力を充実させるとともに「メール119」を導入し、障がいのある方にも安心していただける最先端技術によるシステムを構築し、万全の通信指令業務に取り組んでいます。











# 上田地域広域連合消防本部火災想定訓練‧初動体制訓練

いかなる災害現場においても、冷静沈着に対応できる能力を備えた消防職員を育成するために日常的に各消防署で実施する訓練のほかに、毎年、消防本部と8消防署が合同で「火災想定訓練」を行っています。

また、大規模災害に対する消防本部及び各消防 署職員の初動体制を確立し、迅速かつ適切な災害 対応活動に万全を期することを目的とし、「初動体 制訓練」を実施しています。







# 関係機関合同・連携訓練「消防署・消防団合同(連携)訓練」

消防団は、地域住民の最も身近な防災機関であり、消防活動をはじめ各種の予防警戒活動及び防火防災指導などに大きな期待が寄せられており、地域防災の要として重要な役割を担い各市町村に設置される非常備消防と呼ばれる組織です。

各地域の消防団は「自らの地域を自らで守りたい」という郷土愛護の志を持った人々によって構成され、その土地が持つ風土や歴史、住民の意識など、様々な要因から形成される地域特性豊かな活動を行っています。

消防署と消防団は、合同・連携訓練等を通じ、常 日頃から緊密な関係を構築し、ともに知識・技術を 研鑽することで地域防災力の向上に努めています。





# 上田地域広域連合消防本部管内で発生した大規模災害の記録



S62.4.21

覚知20時20分 上田市大字住吉字金剛寺 東太郎山にて林野火災

上田市 焼損面積/16,341a

損害額/260,476千円 真田町 焼損面積/1,463a

損害額/16,278千円



S62.4.21

党知22時20分 上田市大字下之郷 東山にて林野火災 焼損面積/3,138a 損害額/49,382千円



H元.8.10

覚知21時36分

上田市大字小泉 川西小学校北校舎から出火 焼損面積/2,177㎡ 損害額/51,067千円



H元.8.16

台風15号により、上田市、東部町、真田町 各地に被害発生。207戸床上浸水JR信越線、 田中駅から大屋駅間の道床流失。特急など運 休する。





H6.10.9

党知18時15分 上田市大字下塩尻の危険物施設 (屋外タンク貯蔵所) にて油脂火災 損害額/113,003千円 死傷者/4人



H8.12.24

覚知4時37分

上田市大字中野 塩田中学校校舎から出火 焼損面積/988㎡ 損害額/57,202千円



H9.4.14

丸子町大字東内字殿入にて林野火災 焼損面積/1,500a 損害額/22,110千円 死者/1人

- 30 31



H13.9.11

台風15号により、千曲川に架かる上田市と丸 子町を結ぶ大石橋の橋脚が傾き、通行ができ なくなる。また、瀬沢川(大屋地区)の土手が 一部決壊し、付近住民 に避難勧告がでる



H16.10.20

台風23号により、上田市各地に被害が発生 する。避難勧告2箇所、床下浸水26箇所、総 雨量150mm、被害総額/820.130千円



H17.8.1

覚知2時53分 丸子町生田の工場にて建物火災 焼損面積/5,563㎡ 損害額/829,300千円



H18.7.15~7.19

15日夜遅くから降り出した雨は、総雨量221 mmを記録し、17日から19日にかけて降った72時間降水量209mmの雨は、アメダス観測所の統計開始以来史上最高となった。この集中豪雨により地盤が緩んで、土砂崩落を中心に市内500箇所以上で災害が発生した。自主避難/5世帯 災害発生件数/545件被害総額/674,852千円 行方不明者/1人





H19.5.5~5.7

覚知9時43分

上田市古安曽 (平井寺) にて林野火災

出動人員 消防職員201人、消防団員944人、消防防災航空隊3隊、自衛隊へり2機 焼損面積 2,196a (5月8日の再燃焼失6aを含む) 損害額 3,225千円



H20.4.16

党知18時12分 上田市中丸子 建設中の上田市丸子学校給食 センターから出火 焼損面積/1,473.58㎡ 損害額/234,030千円



H22.8.2

真田消防署雨量計で18時~22時の4時間で 総雨量111mmの集中豪雨

上田市内では矢出沢川が氾濫し、真田町傍陽 地籍から塩尻地籍にかけての千曲川右岸ー 帯で床上浸水55棟、床下浸水275棟、道路、 河川、農作物等に大きな被害





H24.9.5

覚知22時04分上田市浦野 浦里小学校から出火旧校舎を含む 2,580.44㎡焼損 損害額/43,226千円



H26.8.12

党知5時07分 上田市殿城の工場にて建物火災 焼損面積/4,294㎡ 損害額/484,851千円



H28.8.18

依田窪南部消防署雨量計で14時~19時30分の5時間30分で総雨量157.5mmの集中豪雨四泊、長久保地域の一部と古町有坂地域164世帯412人に避難勧告、25世帯64人が一時避難する





#### R元.10.12

「令和元年東日本台風」により、大雨特別警報が発表され、気象庁アメダス鹿教湯観測所で雨量が320.0mmを記録し、管内3観測所で極値を更新した。この大雨等の影響で管内各地で、住家の損壊や浸水、また橋や道路の崩落等が多数発生し、東御市田中橋の道路陥没事案では、転落した車両が川に流され1人の行方不明者が発生し、10月23日まで延べ353人が捜索にあたった。管内被害:死者1人 負傷者7人(関連含む) 住家被害/480棟 【令和3年4月23日現在】



R3.3.23

青木村夫神地籍にて、個人運航のヘリコプターが不時着し、機体を損傷する。 負傷者6人

- 34

# 救助隊の紹介

令和4年4月1日現在、上田広域救助隊は救助隊長1人、救助副隊長2人、分隊3隊総員41人で活動しています。分隊の内訳は、救助分隊1隊(3班編成)、消防活動二輪分隊1隊、水難分隊1隊で構成しています。このうち19人を特別救助隊員に任命しています。

# 救助分隊

救助分隊の任務は、高度な技術と資機材を最大限に活用し、火災や交通事故、労災事故(機械に挟まれた等)など日常生活の中で起こる災害はもとより、風水害や土砂災害等の自然災害、山岳救助、そして震災などの大規模災害、NBC災害などの特殊災害等、多種多様な救助事案などであらゆる人命救助事案に対応します。















# 消防活動二輪分隊

消防活動二輪分隊の任務は、救助分隊任務のほか、地震等広域災害時の情報収集·広報活動及び応急救護活動に従事します。





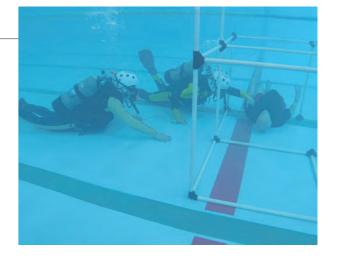


# 水難分隊

水難分隊の任務は、救助分隊任務のほか、潜水 士免許を有する専任隊員による潜水業務による人 命救助活動に従事します。







# 特別救助隊

特別救助隊は、人口が10万人以上の地域を管轄する消防組織に救助専任の特別救助隊の設置が義務付けられ、人命救助の専門教育を受けた隊員5人以上で構成します。特別救助隊員は、広域救助隊員として活動するとともに、より高度な災害等の救助活動に従事します。



- ■令和元年8月6日東御市新張湯ノ丸烏帽子岳救助 出動
- ■令和3年7月16日上田市真田町本原赤井達磨山 救助出動
- ■令和3年11月23日上田市前山独鈷山救助出動
- ■令和3年度から特別救助隊による訓練を年1回実施
- ■令和3年6月26日旧上田市役所庁舎での訓練











 $^-$  36  $^-$ 

# 消防救助技術大会記録

消防救助技術大会とは、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成するとともに、大会を通じて広く皆様に、消防の技術の高さ、力強さ、優しさをアピールすることにより、住民皆様の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。

#### ■長野県消防救助技術大会優勝・ 全国大会出場

昭和63年度	(神奈川県)	基本泳法
平成 元年度	(愛知県)	基本泳法
平成 2年度	(広島県)	基本泳法
平成12年度	(熊本県)	ロープブリッジ渡過
平成13年度	(東京都)	ロープブリッジ渡過
平成14年度	(愛知県)	ロープブリッジ渡過
		ロープ応用登はん
平成16年度	(兵庫県)	ロープブリッジ渡過
平成18年度	(北海道)	ロープ応用登はん
平成21年度	(神奈川県)	ロープ応用登はん
平成22年度	(京都府)	ロープブリッジ渡過
平成25年度	(広島県)	ロープブリッジ渡過
平成26年度	(全国中止)	ロープブリッジ渡過
平成27年度	(兵庫県)	ロープブリッジ渡過
平成28年度	(愛媛県)	ロープブリッジ渡過
平成29年度	(宮城県)	ロープ応用登はん
令和 元年度	(岡山県)	ロープブリッジ渡過
令和 3年度	(全国中止)	ロープブリッジ渡過
		はしご登はん
令和4年度	(東京都)	ロープブリッジ渡過 (第一位)
		はしご登はん

#### ■消防救助技術大会関東地区指導会出場

昭和52年度 (神奈川県)	ロープ応用登はん
昭和55年度 (神奈川県)	ロープブリッジ渡過
昭和57年度 (神奈川県)	ロープ登はん
昭和58年度 (埼玉県)	ロープ登はん
昭和63年度 (神奈川県)	基本泳法
平成 元年度 (埼玉県)	ロープブリッジ渡過
	基本泳法
平成 2年度 (神奈川県)	ロープブリッジ渡過
	基本泳法
平成 3年度 (東京都)	ロープブリッジ渡過
平成 6年度 (埼玉県)	ロープ登はん
平成 7年度 (神奈川県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ登はん
	はしご登はん
平成 8年度 (東京都)	はしご登はん
平成11年度(神奈川県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ登はん
平成12年度 (埼玉県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ応用登はん
平成13年度 (東京都)	ロープブリッジ渡過
	ロープ応用登はん
平成14年度 (千葉県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ応用登はん
平成15年度 (神奈川県)	ロープ応用登はん
平成16年度 (神奈川県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ応用登はん
平成17年度 (埼玉県)	ロープブリッジ渡過
	ロープ登はん
	ロープブリッジ救出
平成25年度 (神奈川県)	ロープブリッジ救出
平成26年度 (千葉県)	ロープブリッジ救出
令和 元年度 (長野県)	引揚救助
令和 4年度 (東京都)	ロープブリッジ救出





























38

# 救急活動について

#### 救急の歴史

昭和38年に消防法が一部改正されたことで、市町村消防機関による救急業務が法制化されました。

その後、昭和61年の消防法の改正で、救急業務には「傷病者が医師の管理下に置かれるまでの間において、緊急やむを得ないものとして、応急の手当てを含む」ことが明記されました。

しかし、搬送中の応急処置は、あくまでも緊急 やむを得ず行う"緊急避難行為"であり、救急隊員 に認められた応急処置は、比較的簡単で短時間に 行うことができ、かつ、複雑な検査や器具の操作 を必要としないものに限られていました。

それに比べ、欧米諸国は救急現場・搬送途上の医療の改善に早くから取り組み、その成果が病院外心肺停止傷病者の優れた治療成績に表れているとの指摘もありました。これらの状況が報道でも大きく取り上げられ、病院前救護・医療体制の充実強化の必要性が国民の間で認識されることとなり、このような社会情勢を背景に平成3年4月23日、重度傷病者の救命率の向上のため、救急現場・搬送途上にかかわる総合的な医学知識および技能が要求



される新たな制度資格として、「救急救命士法」が 公布されました。

救急救命士は、救急現場から医療機関に搬送するまでの間に、傷病者を観察し必要な処置を施すプレホスピタルケア (病院前救護) を担い、救急隊員ではできなかった救急救命処置を行い、心肺停止傷病者のみならず重症傷病者の救命率を向上させることを目的とし活動しています。具体的には、医師の指示を受けて静脈路確保 (点滴)、薬剤投与(アドレナリン、ブドウ糖)、気管挿管などの特定行為を実施することができます。













# 救急車紹介

上田の消防においては、昭和37年11月26日、 上田ロータリークラブからニッサンセドリック(排 気量2000cc)の救急車寄贈を受け、愛称を「ロー タリー号」と名付けて、職員48人で救急業務を開 始したのを先駆けとし、昭和47年には東部消防署 でも救急業務が開始され、その後順次各消防署・分 署においても救急業務が開始されていきました。 令和4年5月現在、8消防署11台(2台は予備車)の 救急車を保有し、常に9台が稼働しています。救



急隊は3人で編成し、1人以上の救急救命士が搭乗 し、活動をしています。







# 救急救命士合同訓練

救急隊としての技術を向上させるため、常に各 消防署において救急隊員と救急救命士が訓練を実 施しているほか、8消防署の救急救命士が定期的 に消防本部に集まり、合同で訓練を行っています。

これらの訓練のほかにも、研修や病院実習等に おいて年間合計64時間以上の再教育を行い、知識 や技術の維持・向上に努めています。









 $\sim 40$ 

# 救急活動について

# 感染症対策

2019年に発生した新型コロナウィルス感染症の世界的流行が消防署の業務に与える影響は非常に大きく、救急出場時には、感染症の対策として、感染防止衣を上下に着用し、N95マスク、ゴーグル、使い捨てグローブを着装し、救急出場しています。







# 救急講習について

家族や友人など大切な人が病気で倒れた時や、 事故にあってけがをした時など、もしもの時に尊い命を守ることができるように消防署では救急講習を開催しています。講習会では、軽度のけがの手当てから、呼吸や心臓が止まってしまった時の人工呼吸や胸骨圧迫といった心肺蘇生法、AEDの使用方法まで、座学と実技で指導します。









# 予防業務について

近年、建築物等は高度な技術の発展により、ますます高度化、複雑化しています。予防行政では、 このような時代の変化に対応するため、危険物規制や建築同意事務、立入検査等を行い、火災を未然 に防ぐことを目的として様々な業務や活動を行っています。

# 立入検査

雑居ビルや危険物施設に対して立入検査を行い、 消防用設備等の維持管理や危険物の取扱い、防火 管理の適正化について指導し、火災予防に努めて います。













# 受付業務

消防署では消防法や火災予防条例等で定められている各種申請・届出の受付業務を行っています。 防火対象物の消防用設備点検の結果報告や防火管 理者の選解任届、消防訓練計画書、訓練結果報告 書などを受付けています。







-42

# 予防業務について

# 消防ふれあい広場

各種体験コーナー及び展示コーナーを設け、火 災予防の啓発並びに広報を行い、住民の皆様の防 火意識高揚を図り、災害の発生を予防することを 目的に行っています。









# 春季•秋季火災予防運動

年間を通じて、ご当地ヒーローに協力してもらうなどし、火災予防広報活動を実施しております。特に春季(3月1日から7日)と秋季(11月9日から15日)の火災が発生しやすい時季を迎える前に、集中して火災予防運動を実施します。街頭でのティッシュ配布や消防車による火災予防広報を行

い、住民の皆様に防火防災意識や防災行動力を高めていただくことにより、火災の発生を防ぎ、万が一発生した場合にも被害を最小限にとどめ、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的として行っています。







# 消火器取扱い講習・指導

火災が発生した場合、消防隊が到着するまでの間に初期消火活動を実施し、火災の延焼拡大を防止するために消火器の正しい使用方法を指導しています。





資料編

 $\sim 44$ 

# 職員の勤務体制

本部職員及び署長は毎日勤務者として月曜日から金曜日までの午前8時30分から午後5時15分までの勤務 となります。警防課通信指令室と8消防署は、3交替制勤務で当番日は午前8時30分から翌日の午前8時30分 までの24時間勤務です。当番日の翌日は非番日で休み、その翌日は公暇日で休みとなります。3週間に一度、 公暇日に日勤勤務が入ります。(3週6休1日勤) その日は午前8時30分から午後5時15分まで勤務します。21 日を1つのサイクルとして勤務しています。3交替制勤務者の当番日の様子を紹介します。

午前8時30分	勤務交替・出動訓練		
午前8時35分~~午前9時	朝礼・引継ぎ、車両・資機材点検		
午前9時~	日中勤務·各種業務·訓練~午後5時15分(正午~休憩(昼食)~午後1時)		
午後5時	日夕点検		
午後5時15分~午後6時15分	休憩(夕食)		
午後6時15分~午後10時30分	夜間勤務		
午後10時30分~翌日午前5時	夜間勤務、休憩(仮眠)		
午前5時~	机上業務·清掃·車両点検		
午前8時30分	勤務交替・引継ぎ		

新型コロナウイルス感染症対策のため、定期的に換気と消毒も行っています。

#### 午前8時30分 勤務交替・出動訓練

上田広域消防は3つの班が交替で24時間勤務をしています。 毎朝午前8時30分に、勤務を始める班と勤務が終わる班が業務の引継ぎをします。







#### 午前8時35分~午前9時 朝礼・引継ぎ、車両・資機材点検

前日からの引継ぎ事項を伝達し、その日の業務予定を確認します。 道路の通行止めや水道の断水などがあれば情報を共有して災害に備えます。









#### 午前9時~

#### 日中勤務・各種業務・訓練~午後5時15分(正午~休憩(昼食)~午後1時)

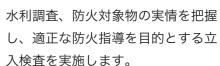
報告書 救急出場報告書・火災防ぎょ・救助・ 災害活動報告書の作成や、火災の原 因を明らかにするための原因調査書 の作成などを行います。

届出 消防法や火災予防条例に基づく各種 届出·申請·報告(防火管理関係、危 険物関係、消防設備等関係、火災予 防条例関係、表示制度関係、水道断・ 減水届、道路工事届など)の受理・ 指導などを行います。

#### 統計業務 国・県・市町村の統計・調査業務を行

います。

調査・検査 消防法に基づき、火災による被害の 軽減を図ることを目的とし、消火栓



各種訓練 どのような災害が発生しても安全・ 確実・迅速に対応できるよう、1日 の業務の中でいるいるな訓練や研修 を行います。主な訓練は、火災想定 訓練、救急訓練、救助訓練などがあ ります。

等の消防水利を管理保全するための

休憩(昼食) 家から弁当を持ってきたり、お弁当 屋さんに注文する人もいます。昼食 中でも出動指令が入れば、すぐに現 場へ向かいます。





火災想定訓練











立入検査







#### 日夕点検(車両・資機材を点検し、夜間の勤務に備えます)





#### 午後5時15分~~午後6時15分 休憩(夕食)

夕方の休憩時間を利用して、夕食を摂ります。いつ出動がかかるか分からないので手早く料理し、素早く お腹に詰め込みます。





#### 午後6時15分~午後10時30分

#### 夜間勤務

電話受付(病院紹介等)、通信指令室での119番通報対応、机上業務、班ミーティング、図上訓練(教養) などを実施します。合間を見つけ体力練成等により体を鍛えています。消防署から明かりが消えることはあ りません。











図上訓練(教養)

#### 消防本部警防課通信指令室の119番通報対応

平成12年11月1日に消防緊急通信指令施設 || 型を導入し管内の通信指令体制が一本化 平成21年3月12日 || 型改修工事実施、平成22年3月16日統合型発信地表示システム導入運用開始 平成28年3月31日消防救急デジタル無線整備事業完了

平成30年3月10日高機能消防指令装置部分更新事業完了

通信指令室では、消防本部管内の上田市・東御市・青木村・長和町から入電する全ての119番通報に対応して います。





#### 午後10時30分~翌日午前5時 夜間勤務、休憩(仮眠)

業務の合間に仮眠をとります。

仮眠中でも災害があれば迅速に出動できるよう、活動服や救助服、救急服などのまま休みます。





#### 午前5時~

#### 机上業務·清掃·車両点検

車庫・事務所の清掃、夜間に出動した救急出場報告書等、勤務日誌、車両機関日誌の作成、車両を清掃・点 検して、次の班に仕事を引継ぐための準備をします。







#### 午前8時30分

#### 勤務交替・引継ぎ

引継いだ後は非番日となり、帰宅できます。非番日の次の日は休み(週休日)ですが、火事や大きな災害が あれば出勤します。基本的には、体と心を休ませ心身ともに鋭気を養った状態で次の当番勤務に臨みます。

# 最新の資機材

# 車両運用端末装置(AVM)

緊急車両に搭載され、車両位置情報、現場までの的確な経路案内、通行障害や水利情報などの各種支援情報、防火対象物の警防図面など災害活動に必要な情報を表示する装置です。





# アリゾナボーテックス(AZV)

都市型ロープレスキューに必要な支点作成のための3脚。3脚以外にも2脚、1脚でも使用可能な為、 低所からの救出等の様々な現場で使用することが可能です。





# ドローン

ドローンとは無線操縦で飛行する無人航空機です。地上から人が近づけないような危険な場所や 災害現場等を上空から映像を撮影し、手元のコントローラーで確認することができ、安全・迅速・的 確な情報収集を行います。





# 電動油圧救助器具

従来の油圧救助器具は救助器具のほかにパワーユニット (エンジンで油圧を発生させる動力源) や油圧ホースが必要でしたが、電動化により、バッテリーのみで使用が可能になりました。また、油圧ホースがないため機動性が高くなりました。





# 救命索発射銃

川や池などの救助現場で使用する救助器具です。 圧縮空気を使用し、最大100メートル程の距離を 飛ばすことができ、対岸にロープを渡す、浮環弾 (着水すると浮き輪になるもの)で水面の要救助者 に浮き輪をとどけることができます。





# 化学防護服

有害物質の発生が考えられる現場で使用し、有 毒ガス等の検知・測定や、人命検索・救出を行う隊 員が使用するものです。





# ガス検知器

一酸化炭素や硫化水素などの有毒ガスの測定、 酸素濃度を測定することにより、救助隊等が活動 する場所の環境の評価をするために使用します。





# 熱画像直視装置

物体が放出する赤外線を温度として検知して、 それを画像にして可視化する装置です。

煙で視界が遮られる火災現場や地震による倒壊 建物で要救助者を探すことに使用し、火災現場で の残火の確認などにも使用します。



# 自動心臓マッサージ装置

救急隊員が行う胸骨圧迫と同等の働きをするため、その他の処置に隊員が従事できることから、より迅速・的確な処置・搬送が可能となります。



# ビデオ喉頭鏡

救急救命士が気管挿管を実施する時に使用します。 ビデオ喉頭鏡は手元の画面に口腔内に挿入した 器具の先端の映像を映すことができ、より確実な 気管挿管が可能となります。



- 50 51

# 歴代消防長



初代消防長 西入 脩一 自S47.4.1~至S48.7.12



第2代消防長 塩崎 正人

自S48.7.13~至S49.3.31



第3代消防長 小宮山 好大

自S49.4.1~至S51.3.31

第4代消防長 母袋 範雄

自S51.4.1~至S52.4.30



第13代消防長 成沢 宏昭

自H10.5.1~至H12.3.31



第14代消防長 宮下 温

自H12.4.1~至H13.3.31



第15代消防長 中村 光廣

自H13.4.1~至H14.4.30



第16代消防長 大久保 弘

自H14.5.1~至H17.3.31



第5代消防長 上野 甲子 自S52.5.1~至S57.9.30



第6代消防長 北村 郁夫

自S57.10.1~至S59.3.31



第7代消防長 西村 光夫

自S59.4.1~至S61.9.30



第8代消防長 出野 正次

自S61.10.1~至S63.9.30



第17代消防長 手塚 一彦

自H17.4.1~至H21.3.31



第18代消防長 小菅 清

自H21.4.1~至H23.3.31



第19代消防長 荻原 敬一

自H23.4.1~至H25.3.31

第20代消防長 中島 裕明

自H25.4.1~至H28.3.31



第9代消防長 田中 要

自S63.10.1~至H2.4.30



第10代消防長 鈴木 秀一郎

自H2.5.1~至H3.9.30



第11代消防長 宮下 正一

自H3.10.1~至H7.4.30



第12代消防長 宮本 智夫

自H7.5.1~至H10.4.30



第21代消防長 長谷川 好明

自H28.4.1~至H30.3.31



第22代消防長 松井 正史

自H30.4.1~至H31.3.31



第23代消防長 越 浩司

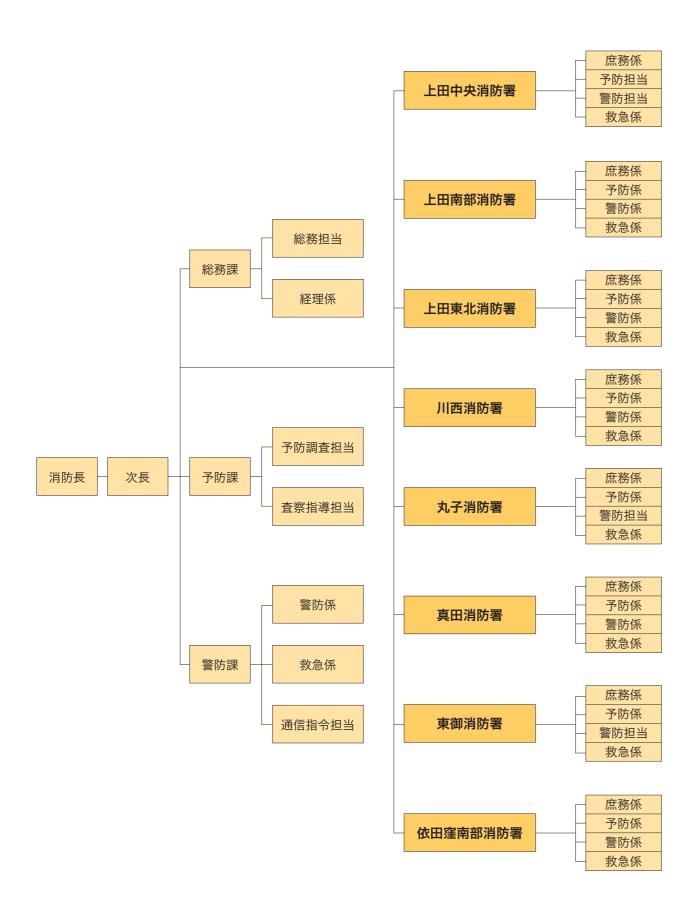
自H31.4.1~至R3.3.31



第24代消防長 堀池 正博

自R3.4.1~

# 消防本部組織図

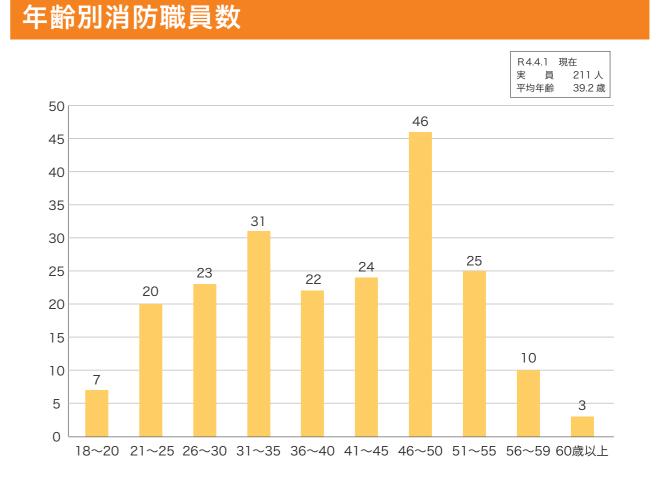


# 階級別消防職員配置状況表

所属	階級	計	消防正監	消防監	消防 司令長	消防司令	消防 司令補	消防士長	消防 副士長	消防士
合計		211	1	2	10	50	56	36	6	50
消防長		1	1							
消防次長		(2)		(2)						
	総務課	11			2	4	5			1
消防本部	予防課	10			1	4	4			
	警防課	15		1		6	5	3		
上田中央消防署		39		1		6	10	5	1	16
上田南部消防署		20			1	4	5	6	1	3
上田東北消防署		19			1	4	5	3	1	5
川西消防署		14			1	4	2	2		5
丸子消防署		23			1	5	7	5	2	3
真田消防署		15			1	4	3	5		2
東御消防署		27			1	5	7	3	1	10
依田窪南部消防 署		17			1	4	3	4		5

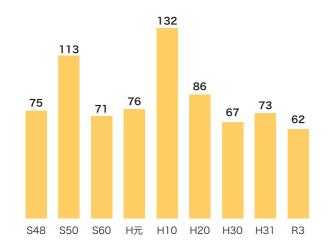
※職員数は、定数218人、実員211人[うち定数外3人(短時間勤務再任用職員)]

※長野県消防防災航空隊派遣(1人)、長野県(1人)、上田市(1人)へ派遣 ※消防次長は、警防課長(消防監)及び上田中央消防署長(消防監)を兼ねる。

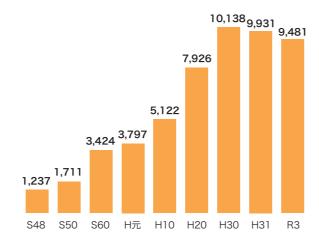


# 広域消防発足以降の各種統計(消防年報から抜粋)

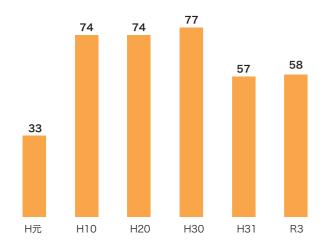
#### ■火災の推移(火災発生件数)



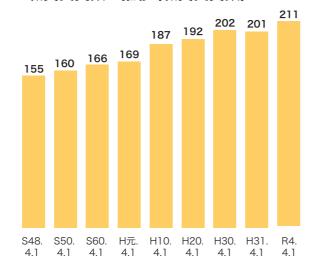
#### ■救急出動の推移(救急出動件数)



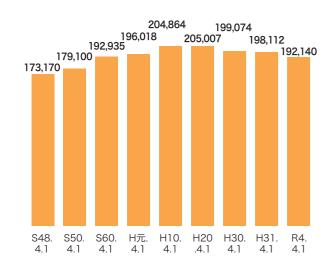
#### ■救助出動の推移(救助出動件数)



#### ■職員実員数の推移(職員実員数)



#### ■管轄人口の推移(管轄人口)





# 構成市町村の消防団

 $\sim$  57

# 消防団紹介

### 上田市消防団

都道府県名	長野県	所在地	〒386-0024				
市町村名	上田市	7/1±26	長野県上田市大手二丁目7番16号				
消防団事務所管	上田市消防部 消防総務課	電話番号 (直通)	0268-26-0119 <b>FAX</b> 0268-23-690				
消防団名	上田市消防団	メールアドレス	shobo-honsomu@city.ueda.nagano.jp				

		分団数		29	分団
		うち機能別分団	団数	0	分団
組織	方面隊数			8	隊
4344		部数		0	部
	班数			0	班
		条例定数			人
	実員数			1666	人
स्र	男性団員数			1590	人
団員数		女性医	団員数	76	人
数		基本団員数		1666	人
	7	大規模災害団員数	Į.	0	人
	その他の機能別団員数			0	人
	国家公務員			0	人
H中	地方公務員			87	人
職業構成別団	都道府県職員			5	人
構成	市区町村等職員			82	人
別	特殊法》	人等公務員に準す	59	人	
員数		農協	職員	48	人
数	日本郵政グループ			15	人
		その他		1505	人
	普通消防ポンプ自動車			22	台
- 0	水槽付消防ポンプ自動車			0	台
ポン		小型動力ポン		75	台
ンプ	小型動力 ポンプ		小型動力ポンプ (車両に積載 していないもの)		台
	手引き動力ポンプ		0	台	
年額	報酬額(階級:団員) 年額		年額	36,500	円
報酬		付税単価(階級:団 年額 員)		36,500	円
出動		火災			円
報酬	風水害等の災害			(出動時間換算) 2千円~8千円 (出動時間換算)	円

ホームページURL https://www.city.ueda.nagano.jp/site/shobodan/

#### ■消防団活動事例・PR等

団本部及び8方面隊、29個の分団で構成されています。各分団の団員はそれぞれラッパ隊・救護隊・バイク隊・広報部会に所属し、分団の枠を越えて活動しています。音楽隊は団本部に所属し、音楽を通して市民への予防消防啓発の活動をしています。

平成18年4月に、4市町村が合併し「新上田市消防団」が結成されました。団員の平均年齢は37.9歳と、社会や家庭で中心的な役割を担う年齢層が大半を占め、同時にサラリーマンの占める割合も高いことから、昼間の地域防災力の低下は全地域の課題となっています。そのような中で近年、各分団は工夫を凝らした訓練を行い、活動の在り方を見直しています。

まず、団本部と分団幹部への座学、規律訓練等の指導者養成、図上訓練による地域特性の把握、管轄消防署との実践に即した連携訓練等、各分団に不足している力を補うための訓練を計画実施することが、分団力の維持向上、団員のスキルアップに繋がっています。

今後、「自分たちの地域は自分たちで守る」という 精神の基で活動をするためには、新入団員や団歴 の浅い団員に上田市消防団で長く活動してもらうこ とが重要です。そのためには、従前の訓練内容を 当たり前と考えず、個々に目を向けた細やかな内容 にし、多くの団員が「経験すること」で自信につな げ、地域で即戦力として活動できる消防団員に育て ることが分団役員の役割です。

10年、20年後を見据え、時代に即した活動に形を変えていく柔軟さが、地域に根差した「魅力ある消防団」のPRに繋がると信じ、現在鋭意活動中です。











#### 東御市消防団

都道府県名	長野県	所在地	〒389-0517 長野県東御市県268番地1		
市町村名	東御市	加工地			
消防団事務所管	東御市総務部消防課消防団係	電話番号 (直通)	0268-62-0119	FAX	0268-63-6119
消防団名	東御市消防団	メールアドレス			

		分団数		6	分団
		うち機能別分団	団数	0	分団
組織	方面隊数			0	隊
ulet?		部数	23	部	
		班数		0	班
		条例定数	800	人	
	実員数			769	人
स्र	男性団員数			747	人
団員数		女性区	団員数	22	人
釵		基本団員数		769	人
	J	、規模災害団員数	久	0	人
	そ0	の他の機能別団員	0	人	
		国家公務員			人
聯		地方公務員	68	人	
職業	都道府		県職員	2	人
構成		市区町村	66	人	
成別団員数	特殊法人等公務員に準ずる職員			28	人
員		農協	15	人	
釵	E	日本郵政グループ	4	人	
		その他	667	人	
	普通	普通消防ポンプ自動車			台
	水槽	付消防ポンプ自	0	台	
ポンプ		小型動力ポン		41	台
プ	小型動力 ポンプ	小型動力ポン: していな		0	台
		手引き動	カポンプ	0	台
年額	報酬額(階		年額	15,000	円
報酬	(参考) 交付税 員	単価(階級:団 i)	年額	36,500	円
出動		火災	2千円~8千円 (出動時間換算)	円	
報酬		風水害等の災害	2千円~8千円 (出動時間換算)	円	
ホームページURL					
S	SNSアカウント				

#### ■消防団活動事例・PR等

東御市は長野県東部にあり、島崎藤村が詩に詠んだ千曲川と鹿曲川の清流に恵まれ、特産品は、くるみ、ぶどう、白土馬鈴薯、そして伝説の力士雷電 為右衛門(らいでん ためえもん)の出身地でもあります。

また、湯の丸高原は東京オリンピック・パラリンピックでメダルを量産した競泳日本代表の高地トレーニングの拠点地ともなりました。

東御市消防団は、1本部、6個分団、1隊で構成されており『自分たちのまちは自分たちが守る』という使命感のもと、地元に密着した防災組織として幅広い年齢層の団員が活躍しています。

また、音楽隊は地域の各種イベントに出演し、音楽を通じて火災予防の啓発活動を行っています。







58

# 消防団紹介

#### 長和町消防団

<b>都道府県名</b> 長野県		所在地	〒386-0603		
市町村名	長和町	MEN	長野県小県郡長和町古町4247-1		
消防団事務所管	長和町 総務課総務係	電話番号 (直通)	0268-75-2040	FAX	0268-68-4139
消防団名	長和町消防団	メールアドレス	kikikanri@to	wn.nagano	-nagawa.lg.jp

		分団数		7	分団
		うち機能別分団	団数	0	分団
組織	方面隊数			0	隊
WHX -	部数			0	部
		班数	0	班	
	条例定数			250	人
		実員数		225	人
<b></b>		男性区	団員数	198	人
団員数		女性区	団員数	27	人
数		基本団員数		225	人
	7	大規模災害団員数	0	人	
	その他の機能別団員数			0	人
	国家公務員			3	人
HOL	地方公務員			46	人
職業	都道府県職員			0	人
構成	市区町村等職員			46	人
成別団	特殊法人等公務員に準ずる職員			5	人
員		農協	2	人	
数	日本郵政グループ			2	人
	その他			169	人
	普通消防ポンプ自動車			0	台
- 0	水槽付消防ポンプ自動車			0	台
ポン		小型動力ポン		22	台
シプ	小型動力     小型動力ポンプ (車両に積載していないもの)       手引き動力ポンプ       報酬額 (階級:団員)     年額			0	台
			5	台	
年額			年額	36,500	円
報酬	(参考)交付税単価(階級:団 員)			36,500	円
出動	火災			8,000	円
報酬	国水実等の災害			8,000	円

ホームページURL	http://town.nagawa.nagano.jp/
SNSアカウント	

#### ■消防団活動事例·PR等

長和町は、長野県のほぼ中央、小県郡の南部に位置し、東は蓼科山系の山脈を境として立科町に接し、南は中信高原霧が峰山塊を境として茅野市、諏訪市に接し、西は美ヶ原高原があり松本市に接し、北は上田市と接しています。

長和町消防団は、自らの地域は自らで守るという郷土愛護の精神に基づき、地域の安心安全のため予防啓発を中心に、日頃から訓練を含め活動しております。

また、梅雨の前には地域の皆様と水防訓練を実施しています。

町のイベントでは、子供たちを対象に放水体験 なども行っています。





# 青木村消防団

都道府県名	長野県	所在地	〒386-1601		
市町村名	青木村	別任地	長野県小県郡青木村大字田沢111番地		
消防団事務所管	青木村 総務企画課	電話番号 (直通)	0268-49-0111	FAX	0268-49-3670
消防団名	青木村消防団	メールアドレス	soun	nu@vill.aok	i.lg.jp

	分団数			2	分団	
		うち機能別分団	団数	0	分団	
組織	方面隊数			0	隊	
dass		部数	11	部		
		班数	6	班		
		条例定数		300	人	
	実員数			249	人	
EE .		男性区	団員数	242	人	
団員数		女性区	団員数	7	人	
数		基本団員数		240	人	
	J	大規模災害団員数	Į.	0	人	
	その	の他の機能別団員	数	9	人	
		国家公務員	0	人		
RM:		地方公務員		25	人	
戦業		都道府	県職員	1	人	
構成	市区町村等職員			24	人	
別	特殊法力	(等公務員に準す	<b>『る職員</b>	6	人	
職業構成別団員数		農協	職員	2	人	
数	E	日本郵政グループ	Ĵ	1	人	
		その他			人	
	普遍		1	台		
	水槽付消防ポンプ自動車			0	台	
ポッ		小型動力ポン	ノプ付積載車	13	台	
ンプ	小型動力 ポンプ	小型動力ポンプ していな		0	台	
		手引き動	カポンプ	0	台	
年	報酬額(階		年額	36,500	円	
額報酬	(参考) 交付税 員	単価(階級:団 1)	36,500	円		
出動	火災			8,000	円	
報酬		風水害等の災害		8,000	円	
ホ-	-ムページURL	ht	tp://www.vill.a	oki.nagano.jp/		
		la thin . /	hattan / /www.vill and in an ana in /havensi /			

# http://www.vill.aoki.nagano.jp/ http://www.vill.aoki.nagano.jp/bousai/ syouboudan.html https://www.facebook.com/aoki.fire.coops. volunteer

#### ■消防団活動事例・PR等

青木村は長野県のほぼ中央、上田市と松本市の間にある小さな村です。江戸時代には一地域で百姓一揆が最も多く起こった「義民の郷」として知られ、伝統的に「自分たちの村は自分たちで守る」という意識が高い地域です。

また、東京急行電鉄の事実上の創業者、五島慶 太翁の出生地でもあります。伝統ある消防団も、近 年は団員数の急激な減少が大きな課題であり、令 和元年度より、村内企業の村外在住社員を対象に 就業時間のみ活動する機能別消防団員を登録して いただいています。

令和3年度より、定年等で退団した方も希望者は 再入団できる制度を発足させて、消防団員の確保を 図っています。

令和3年度青木村に、総務省消防庁より救助用 資機材・防災学習用資機材搭載型小型ポンプ積載 車が貸与され、青木村消防団で運用しています。地 域の防災訓練や小中学校の防災学習に役立てたり、 有事の際の本部車両として有効に活用していきます。





- 60 61  $\cdot$ 

# 災害派遣の記録



平成7年1月 阪神淡路大震災



平成16年7月 新潟県豪雨災害



平成16年10月 新潟県中越地震



平成26年9月 御嶽山噴火災害



平成29年3月 長野県消防防災へリコプター墜落



成8年12月 蒲原沢土石流災害



平成16年7月 福井県豪雨災害



平成23年3月 東日本大震災



平成27年8月 御嶽山噴火災害再捜索活動



令和3年7月 熱海市土石流災害

#### 上田地域広域連合消防本部広域消防発足50周年記念事業実行委員名簿

令和4年4月1日

役職		氏名	職名等
委員長		長谷川 好明	元消防長·消防部消防団担当政策幹
副委員長		越浩司	前消防長・総務課総務担当政策幹
		堀池 正博	消防長
事務	局長	西澤 和浩	総務課長
事務		髙橋 浩二	総務課課長補佐兼総務担当係長
<del>丁</del> 尔	7111	西沢 啓太	総務課主査
		倉島 央行 (リーダー)	予防課査察指導担当係長
		久保 大樹	予防課主査
		吉田 広行	警防課課長補佐兼救急係長
	記	長井 雅直	警防課主任
	記念事業作業部会	竹村 満弘	上田中央消防署副署長兼庶務係長
	作業部	渡邊 隆	上田南部消防署救急係長
	会	伊藤 郁人	上田東北消防署係員
		竹澤 飛星	真田消防署係員
		大澤 浩	東御消防署副署長兼庶務係長
委		大滝 祐治	依田窪南部消防署予防係長
委員		関 英之 (リーダー)	上田東北消防署警防係長
		宮原 拓也	上田中央消防署主任
		白井 幸一	川西消防署警防係長
	記	新村 剛史	川西消防署主任
	念誌	塩沢 憲治	丸子消防署主査
	記念誌作業部会	佐藤 洋輔	丸子消防署主任
	会	柳沢 芳明	真田消防署副署長兼庶務係長
		武田 光弘	真田消防署救急係長
		中村 文彦	東御消防署長
		池田 祥	東御消防署係員

# 上田地域広域連合消防本部 広域消防発足50周年記念誌

編集 上田地域広域連合消防本部

広域消防発足50周年記念事業実行委員会

発行 上田地域広域連合消防本部

発行日 令和4年11月9日 印刷·製本 株式会社 日広